

経済学の再建と経済教育の未来

塩沢由典

昨年の報告： いま経済学と経済学教育に必要とされているものはなにか

概要

1. 中等課程での経済学

- 報告要旨の最初の部分(1.高校までの経済学教育)

2. 経済学部での教育

- 「競合するパラダイムという視点」『経済学と経済教育の未来』(桜井書店、2015)第4章

3. 大学院教育

- 報告要旨の2/3

4. まとめ

今回の概要： 経済学と経済教育

- 大学が知の中核装置であり続けた理由
- 経済学の現状と再建の課題
- 日本のおかれている状況
 - キャッチアップ時代の終焉
 - 社会・国・企業・教育の課題(課題先進国なのに)
- 経済教育の未来

大学はなぜ知の中核装置でありつつ けられたのか

- 知の中心が大学にあったとは限らない。
 - 図書館(アレキサンドリア)、修道院、大学(中世)
 - 文芸復興(手紙の共和国)、アカデミー
 - (近代の)大学[実験室、セミナー]
- 学問の自由(日本国憲法第23条)
 - 政治権力からの自由、大学の自治(欧米)
 - 研究・発表・教授の自由(いちばんは研究の自由)
 - 学問は標準化では進歩しない[↔参照基準]。
 - パラダイムの革新・革命により発展する。(T. Kuhn)

経済学の学問状況(今年のシート)

● 主流と先端

- 米国: 海水と淡水、New Classical E.& New Keynesian E. ノーベル経済学賞に見る多様性

● 異端(Cf. Heterodox Economics News)

- Post Keynesian E. (Fundamentalist, Kalecki, Sraffa, Davidson)
 - 進化経済学(制度派、シュンペータ、Nelson)
- マルクス経済学(正統派、宇野派、市民社会派、URPE、...)
- レギュレーション理論 ■ 進化社会科学(Bowles、Gintis)

● 内部で争っている意義？

- 近いもの同士の争いに傾き勝ち。
- 主流派に代替する意気込みが必要。

現在主流の経済学

- Thatcher-Leagan, Neo-liberalism
- 経済学も市場至上主義へシフト
 - 淡水派だけでなく、塩水派も市場自由主義へ。
H.U経済学部は政治的に保守化。
- 帰結
 - 金融市場の自由化⇒2007-2009金融危機
 - 所得税減税⇒貧富の格差増大、低成長
 - 金融理論(貨幣数量説)⇒安倍・黒田政策

新しい動きはある。

- Institute for New Economic Thinking
 - 2009年以降、G. Sorosが資金(5千万ドル)を出した。
- Real-World Economics Review/WEA(2011)
- Student Initiative for Pluralism in Economics
 - Student groups working for the reform of economics education 27 countries, 72 groups
 - Rethinking Economics
- Evonomics (Dec.2015スタート)
 - Evonomics, The Next Evolution in Economics



Rethinking Economics Italia



↑ Rethinking, Norway 2016

← Rethinking, Italia, 2016

Rethinking Economics

We are an international network of rethinkers coming together to demystify, diversify, and invigorate economics.

<http://www.rethinkeconomics.org/>



IIFE, Tübingen, 2014

経済学の危機

- 主流派経済学者が危機を感じていない。
 - O. Blanchard, Chief Economist IMF (2008-15)
 - 2009 The state of macro (is good).
 - Ann.Rev.Ec. 依頼原稿、序の第3段落最終文。
- Krugman この30年のマクロ経済学
- 咽元過ぎれば熱さ忘れる
 - 2008-09危機がなかったかのように
 - H. Gintis (かつてのラジカル派の旗手): Where New Economics Meets Old / Is traditional economics really dying? *Economics* 2016 June 22

多様性の尊重？ 多元的な経済学？

●『経済学教育と経済教育の未来』2015

- 「参照基準に反対する」という点では正しい。

●日本の経済学界の問題点

- 学生(大学院)の動きがない。若手学者の保守化。
- 学問としては、pluralでなくunity, coherenceを。

●新古典派に対抗できる経済学とは

- マルクス経済学ではない。
- ケインズ経済学でもない。

なにを問題とすべきか

- **世界: Heterodox economics**
 - 学生がpluralismを求めるのはよい。
 - しかし、pluralistic economicsは適切か。
 - 博物学的段階へ逆戻り?
- **現状: 多くの反新古典派が存在する。**
 - それぞれ重要と思う仮定を一つ変えるだけ。
 - 制度派(OIE、進化経済学、マルクス派)。しかし、NIEや制度を考慮する主流の経済学が発展。
- **中核理論での新しいパラダイム。**

方法(分析装置)の問題 (理論の問題に入る前に)

● 科学の方法

- 理論(theoria:古典ギリシャ)、実験(ルネサンス)
- 第3の方法 シミュレーション (J.Gray 第4の方法: Data Exploration)

● 経済学の方法

- 19世紀 概念的方法(文学的方法)
- 20世紀 + 数学的方法
- 21世紀 + シミュレーション

数学と計算とは補完性が高い。
証明と計算⇒カーリー・ハワード対応

● 明日のU-MARTデモ

- 参考: Taniguchi et al. (Eds.) *Realistic Simulation of Financial Markets*, Chap. 1. Guided Tour of the Backside of Agent-Based Simulation

わたしの考える経済学の全体像

●理論的中核

■古典派価値論、複雑系経済学、進化経済学

●政策論、経済史、実証研究

■進化経済学に基づく「政策論」: D.Ellerman(並行実験)

●古典派価値論 (■は概成、◆は未概成領域)

■国内価値論、地代論(枯渇資源論)↔散逸構造

■国際価値論 ◆労働市場の経済学

◆金融経済の経済学

どのくらいいちがうか(根底的か)

● 中学・高校で教える経済学まで関係

✕ 需要供給の法則

- 需要曲線・供給曲線(英ではMarshall以降)
- 価格=>需要・供給の一致 (Smith以前から)

● 生産費価値説(cost of production theory of value)

- 詳しくはShiozawa (2015) The Revival of Classical Theory of Values, Yagi et al. Chap.8
- 予稿がResearchGateにある。

生産費価値説(古典派価値論)

● 学説史

- Smith, Ricardo (労働価値説ではなく、生産費価値説)
- 理論として概成 Sraffa + OERG、両者の統合(21c.)

● 多少の理論: 価値方程式

- 方程式で書くと $(I+M)\{w \cdot a_0 + A p\} = p$

ここでは単位行列、Mは上乘率を並べた対角行列、 a_0 , Aは投入係数、wは賃金率、p価格ベクトル。**生産費は生産物の価格に依存する。**

- pは(wと)技術係数[生産条件]のみにより決まる。
- 供給量も需要量も関係しない。
- 需要と供給は一致しない?

企業の行動原理(見えざる手から企業へ)

● 価格設定者 設定原理:

- 上乗せ価格 = $(1 + \text{上乗せ率}) \cdot (\text{単位原価})$

● 定価制の歴史

- 欧米での正札は1861 Oak Hall, Philadelphia
- 三井高利(江戸開業、1673年52歳、4男)
- 「店前_{たなさき}売り」と「現銀掛値なし」(正札定価制)

● 数量調整者 調節原理:

- 定価で売れるだけ生産・供給する。

比較のために:ワルラス型経済

- 基本:どこにも価格設定者はいない。
 - 虚構の裁定者を想定(Walras, Arrow & Debreu)
 - 完全競争 シカゴ学派はこれしか認めない。
- 不完全競争(R.)・独占競争(Ch.)
 - 限界収入=限界費用
- 生産増大を制約するもの
 - 費用増大、現在価格でもっと売ったら利益減。
 - 非現実的の極み。なぜ企業は営業に注力するか。

学説史の書換え:新古典派経済学の起源

● (通説)新古典派経済学の起源

- 1870年代 Jevons、Walras、Menger 同時発見
- 「限界効用」概念の導入 ■ ほとんどはJevonsの作り話

● どこがおかしいか

- フランス 一貫して効用学説(イギリスでも相当数が)
- ドイツ1841 Rau (4th ed.) 需要供給曲線

● (わたしの考える)起源(Mill's reversion ...)

- 貿易の利益 18世紀ルール(H. Mertyn, 1701)
- 現在のHO理論は、J.S.Millの誤解の上になされた
- 「生産の経済学」から「交換の経済学」へ

天文学の歴史に譬えてみると

● 新古典派経済学は天動説

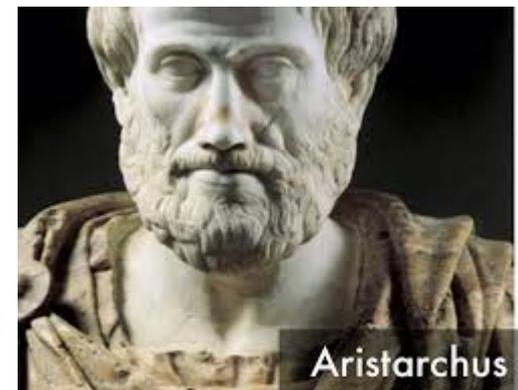
- Ptolemaios(90-168) Tycho Brahe(1546-1601)
- 精度は非常に高かった。

● 地動説 Copernicus(1473-1543)

- 精度で勝負できるようなのはKepler以降
- 地動説の革命的意義は?
- KeplerからNewtonへ

● 古典ギリシャの地動説

- Aristarchus of Samos (c.310-c.230 BC)



リカードはサモスのアリストアルコス

●リカード 古典派時代の異質な理論

- リカードの生産費価値説: 客観的な社会関係がもたらす。
- 仏独には根付かなかった。
- 例外: マルクス、しかし実質価値説、✕ 社会関係説。
- 英でもJ.S.Millまで、ミルは需給説に復帰(交易条件不確定)

●限界革命は虚構(新古典派反革命)

- スミス以前の主観価値説、需要供給の法則へ回帰
- 現代化: 均衡と最適化

●経済学の再建⇒古典派価値論の復権・発展

以上はみなさんの常識を破壊するため

- 詳細は、今後勉強してもらわなければならないこと。
- 日本・世界経済のおかれている状況
 - 日本の状況 少子高齢化、0成長、格差・病理
 - 課題先進国 だが、いまだに後追い(あらゆる領域で)。
- 知識の創造
 - 学習では追いつかない。
 - 創造のためには、unlearnすることが必要。
 - (経済学でいえば)既製の常識を解除すること

1930年代スウェーデンの挑戦

● Alva Myrdal(1902-1986)

■ 夫Gunner 1974 NP

■ 妻Alva 1982 NP平和
(核兵器のない地域)

● 『人口問題の危機』

■ 1934、Gunnerと共著

● 北欧型経済の原型

■ 福祉国家の成長率は



真の学問教育とは

■ リテラシー/Disipline教育

- 人文系L、理系L(数学など)、社会L

● 学問・高等教育(Higher Learning)

- なにが正しいか分かっていない。
- 先の見えない中で(比較的)正しい答えを探す。
- そのような思考習慣は、いかに形成されるか。

● 今日日本に必要なのは、真の学問教育

- 経済学教育は最先端でありうる(学問の現状・課題)。

すべての教員を大学院へ

●「政治経済」教員の現状^[浅野・山岡・阿部2012-15]

- 学士以上99% ■ 経済(商・経営)30%(経のみ24%)
- 政治(法律)23%(政のみ6.8)

●政治経済

- すべての教員が学士課程か修士課程で政治学と経済学を履修する機会を。
- 例: 政治学部卒の教員⇒一年間のサバティカル(有給で修士学位を取得)

●もうひとつの効果

- 経済学教員の再履修機会にも

4.まとめ

- 学問と教育とは、切り離せない。
- 経済学の革新が求められている。
- 大きな動きがある。
- 社会に関する理解を変えなければ解決しない問題がある。経済学の役割。
- 教師・経営者・(中央・地方)政府幹部・ジャーナリストの(再)教育が必要